秋田魁新報　2022年06月05日付　にちよう学芸左

Come On! 文化部 ③

# 仲間と真剣に腕磨く

## 仁賀保高eスポーツ部

コントローラーを手に、スティックを小刻みに操って技を繰り出す。勝ったら歓声、負けたら悲鳴。仁賀保高校（にかほ市）eスポーツ部の部室は、真剣に画面を見詰める部員たちの熱気が漂う。

eスポーツは「エレクトロニック・スポーツ」の略。テレビゲームやコンピューターゲームのオンライン化が進み、近年は小中高生の間でも全国規模の大会が開かれるなど、スポーツ競技として注目度が高まっている。

仁賀保高eスポーツ部は、誕生して1年余り。前身がパソコン部という経緯もあり、同校では文化系の部活動だ。普段は、出場する各種大会で採用されているゲームに応じて数人のグループを作り、対戦練習を重ねている。

ゲームのジャンルは格闘系の「ストリートファイター5」（カプコン）から、カード戦略ゲーム「クラッシュ・ロワイヤル」（スーパーセル）、バトルロイヤル「フォートナイト」（エピック・ゲームズ）までさまざま。メンバー同士で戦略や効率の良いキャラクターの動かし方などを話し合って腕を磨き合う。

部長の佐藤遥斗さん（2年）は「一人でやるより仲間と一緒に楽しみたい」「興味のあるゲーム分野にそろっているので入りたい」といった理由で入部してくれる」と話す。「ゲーム愛」にあふれた部員たちだ。

競技として認知されてきたとはいえ、eスポーツを偏見や遊びと受け止める人は少なくない。そのため、部には「成績が悪化した場合は部活動禁止」というルールがある。成績が一定水準以下に落ちると、次回のテストで水準以上に戻らない限り、部活動に参加できない。単なる遊びでないことを示すためのルールだ。

部内での自主練習時間に制限はないが、「学生の本分は勉強。しっかり勉強できてこそ自由が認められる」と佐藤さん。顧問の小西一幸教諭（43）は「ルールに基づいて仲間と切磋琢磨し、上達するための方法を自ら学んでほしい」と語る。

2年前の学校祭では、対戦アクションゲーム「大乱闘スマッシュブラザーズ」（任天堂）の学級対抗戦で部員らが裏方として準備。予想以上に盛り上がり、翌年に球技大会の種目に採用された。eスポーツの経験を学びに生かす取り組みは始まったばかり。小西教諭は「社会への貢献や特技を使うなど、プラスアルファを身に付けてくれたら」と部員たちを温かく見守る。

（菅原洋祐）

＜第1・日曜日に掲載＞

大型スクリーンを見ながら、任天堂のスポーツ対戦ゲーム「ニンテンドースイッチスポーツ」で体を動かす部員（撮影のためマスクを外しています）

コントローラーを手にポーズを取る部員

### VRで避難を疑似体験

#### ゲーム感覚で学ぶ

eスポーツ部では2021年秋から、デジタル関連の部活動を支援する県の「秋田DXクラブ運営事業」の一環で、災害が起きた時の避難行動を疑似体験する仮想現実（VR）コンテンツの制作に取り組んでいる。CG映像制作などを手がけるゼロニウム（秋田市）が協力している。

VR空間では、校舎での火災を想定。出火場所や発生時間帯などを設定し、一定時間内に避難するシミュレーションを作った。装着したカメラで避難経路や煙の広がり方の違いなどをゲーム感覚で学ぶことができる。実際の避難訓練は、避難経路の確認が主であることから、災害時には臨機応変に対応する必要があることを理解してもらう狙いだ。

3月下旬に県正庁で開かれた活動報告会では、部員の鈴木夏太（かなと）さん＝2年＝がこれまでの取り組みを説明。佐竹敬久知事にも体験してもらい＝写真、「VRでさまざまな状況をつくり出すことで、災害から身を守る大切さを、年齢問わず体験できる」などと紹介した。

VRコンテンツの開発は本年度も継続し、火事だけでなく、地震など他の災害が起きた際の対応も学べるようにするなどして機能を広げたい考えだ。

### ◇部長から一言◇

#### 誰とでも気軽に

佐藤　遥斗さん（2年）

eスポーツ部の特徴は、学年を気にせず、誰とでも気軽にゲームを通じて交流できることです。比較的新しい競技で、運動が苦手な人も参加できますし、画面を通じて初めて会う人と連携・協力したり、対戦できたりする楽しみがあります。

ただ、楽しむには自己管理が欠かせません。部員は「熱くなりすぎない」「ゲーム時間を自分で決める」など自分なりのルールをそれぞれ持っています。

部員全員で何らかの全国大会に出場したいです。今年は「ステージゼロ」（全国高校対抗eスポーツ大会）や栃木国体での「全国都道府県対抗eスポーツ選手権」などがあります。ゲームを楽しみつつ、大会でも成果を上げたいと思います。

▶創部年＝2021年。前身はパソコン部で、全国高校eスポーツ選手権への出場を目指して18年から活動開始

▶部員数＝24人（1年9人、2年15人）

▶近年の主な実績＝「全国都道府県対抗eスポーツ選手権2021MIE」の「eFootball ウイニングイレブン」県代表。「ステージゼロ」（全国高校対抗eスポーツ大会）出場

ⓒ秋田魁新報社